

親鴨だより



2005年 5月号
第217号

若葉の映える新緑の季節となりました。冬から春先にかけて流行する風邪、インフルエンザ、花粉症もようやくそのピークが過ぎホッと一息ついていることでしょう。会員並びにご家族のみなさまにはこの時期益々お元気でお過ごしのことと推察いたしております。

さて、私が所属する野洲支部の活動状況を振り返ってみますと、1994年に支部設立以来今年で11年目を迎えます。この間、緩やかに、しかし確実に会員数が増え設立時の36名から今は150名となり、行事の参加者も年々増加、益々活況を呈しつつあり嬉しく感じております。又、親鴨会本部では、先ずIT化の一環として親鴨会独自のHPを立ち上げ、同時にIBMの定年退職者向けに開設されているOB・NetへのLinkも実現、(株)ベルス社が親鴨会の事務局を、そしてまた親鴨会本部と各支部間との連携を一層密にするため連絡係りを決めるなど、体制と運営の強化をはかり会員のみなさんへのサービスの向上に努めております。今後は情報機関誌「親鴨だより」に加えてHPなどもご活用ください。

4月には各支部で、本年度の親鴨会総会が盛大に実施されたことでしょう。そして愈々年間行事計画がこれから本格的に実施に移されます。現役時代に培った仲間との再会、そして旧交を温め、親睦を深めることは誠に有意義なことと思っていますし、その場、その機会を提供するのが親鴨会行事でもあります。是非この機会を捉え積極的なご参加を希望します。

私ごとではありますが、最近マジックの仕掛けに興味を持っておりまして、たまたまある「マジック教室」に何回か通い、それを近所の人を対象に披露していましたところ、偶然にも高齢者へのディサービス、訪問介護を手掛ける会社に招かれて、拙い私のマジックショーを発表する機会がありました。果たして私のマジックが通用するか否か一抹の不安を抱きながら冷や汗の連続でしたが、終わると同時に出席者からの暖かい拍手と溢れる笑顔を全身に浴びて言い知れぬ幸福感を味い、ボランティアの神髄を体験、無償の素晴らしさを思い知ったことでした。これからは親鴨会に携わる一人としてみなさんに一層満足度の高い行事計画をと思っているこの頃です。心地よい季節の中みなさんのご活躍を心より願っています。

野洲支部:柴原 喬